

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	児童発達支援TODAY is NewLife東和田		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日		~ 2026年 2月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 40名	(回答者数)	23名
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日		~ 2026年 2月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 10名	(回答者数)	10名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月9日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されている。	毎月の懇親会の実施や、保育園様や幼稚園様への園訪問でお子様の様子を直接見ての保護者様へのお伝えや、事業所で出来る事の実施・共有等を行う事で本人にとっての支援を具体的に行っている。	園訪問の頻度や、保護者様のアセスメントの頻度を上げていき、お子様の現在の様子に合わせた支援体制を行っていく。
2	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されている。	事業所での運動療育のメニューや療育の意味を定期的に情報公開し、これから来所を考えていらっしゃる保護者様にも分かりやすく発信している。	児童発達支援施設に悩まれている方、実際にご利用されている方がご覧になり、興味を持って頂ける、また利用してみたいようなテーマ投稿をしていく。
3	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されている。	会社内の他の児童発達支援の行っている内容の運動療育を共有して頂いたり、放課後等デイサービスの運動療育を児童発達用に帰る等、社内共有を密に行う事で空きの来ない様々なメニューを提供できる。	外部研修の受講や、各専門職種からの意見を取り入れ、お子様の発達の状況や障害の特性等に応じて柔軟に組み合わせて実施が出来るようにする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になっていない。	外階段の手すりが途中で終わってしまっていたり、水化はけがあまり良くない等の改善点がある。	不動産会社と連携していきながら、改善できる点は改善をしていく。
2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練がされているかの周知不足	年2回の避難訓練や、災害時の対応の動画視聴を行っているが、保護者様や外部への周知が不足している。	SNSでの周知を継続して行い、支援会議や見学時等に保護者様や外部の方に実施の様子をお伝えしていく。
3	きょうだい向けのイベントの開催や、きょうだい同士の交流の機会などがあまりなかった。	懇親会の際に兄妹間の関りが持てる様な時間がなく、ご利用者様と同じ活動になっている。	兄妹の参加を促していき、懇親会に来ていただいた際に兄妹同士でも関わりができる活動を企画していく。